

デートDVに関する大学生意識等調査の概要  
(DV防止・被害者支援基本計画(第5次)に向けての調査)

調査時期	令和2年10月～12月	平成27年10月～11月
回答状況	調査対象者数：全学生 回答者数：1,315人 回答率：不明	調査対象者数：1,423人 回答者数：1,274人(うち無効数32) 回答率：89.5%

協力大学：8大学 { 江戸川大学、川村学園女子大学、敬愛大学、城西国際大学、聖徳大学、  
千葉大学、千葉科学大学、千葉県立保健医療大学 }

## 1 回答者の構成

### (1) 男女別

回 答		令和2年度	平成27年度
1	男子	28.8% (379人)	42.1% (523人)
2	女子	71.2% (936人)	57.9% (719人)
	計	100% (1,315人)	100% (1,242人)

### (2) 年齢

回 答		令和2年度	平成27年度
1	18歳	21.1%	10.2%
2	19歳	30.3%	29.9%
3	20歳	16.8%	33.8%
4	21歳	16.4%	15.2%
5	22歳	7.6%	6.1%
6	23歳	2.9%	1.3%
7	その他	4.9%	3.5%

## 2 調査結果

(1) あなたは「DV(ドメスティック・バイオレンス)」を知っていますか。  
(一つのみ選択)

回 答		令和2年度	平成27年度
1	法律も内容も知っている	23.1%	23.9%
2	内容をほぼ知っている	62.0%	61.5%
3	言葉だけ聞いたことがある	14.1%	12.8%
4	言葉も内容も知らない	0.8%	1.8%

コメント H27→R2 DVの認知度はほぼ横ばい

(2) あなたは「デートDV（交際相手からの暴力）」について見たり聞いたりしたことがありますか。（いくつでも選択可）

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	テレビや新聞などのメディアで見聞きしたことがある。	73.8%	70.9%
2	友人や家族などから話を聞いたことがある。	15.5%	14.6%
3	デートDVの講座等に参加（受講）したり、企画に関わったりしたことがある。	12.9%	7.2%
4	彼（彼女）から暴力を受けた人が身近にいる。	5.8%	5.2%
5	自分が、彼（彼女）から暴力を受けたことがある。	3.3%	3.5%
6	自分が、彼（彼女）に暴力をふるったことがある。	0.4%	1.5%
7	知人からデートDVに関する相談をされたことがある。	3.5%	0.6%
8	その他	1.7%	1.3%
9	見聞きしたことはない。	15.6%	19.2%

コメント H27→R2 テレビや新聞などのメディアにより、デートDV認知度が上昇

(3) 彼（彼女）との付き合い方や恋愛について、あなたが参考にしたり、影響を受けたりしているものがありますか。（いくつでも）

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	テレビ・ラジオ	36.0%	35.7%
2	インターネット・携帯・スマートフォンサイト	59.0%	39.2%
3	DVD・ビデオ	10.0%	6.0%
4	雑誌・マンガ・本	27.8%	23.4%
5	友達・先輩など	59.7%	51.7%
6	交際相手からの情報	24.3%	13.0%
7	家族	25.2%	13.8%
8	学校や大学の授業など	12.1%	8.4%
9	その他	4.9%	5.6%

コメント 友達、先輩等からの影響はH22・27・R2すべてで一番多い。

H22→27→R2 ネット、携帯、スマホによる影響が増大

(4) 彼（彼女）からの行為で、あなたが「デートDV」にあたると思うことは次のどれですか。（いくつでも）

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。	96.0%	92.2%
2	なぐるふりや刃物などでおどす。	91.5%	84.5%
3	腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。	78.3%	67.1%
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する。	91.5%	79.5%
5	携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。	61.2%	51.6%
6	人の前でばかにしたり、傷つく言葉を言う。	73.4%	59.6%
7	大声でどなる。	78.8%	62.0%
8	デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。	69.8%	53.3%
9	「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。	74.8%	65.1%
10	相手が何を言っても無視し続ける。	63.7%	50.6%

コメント H27→R2 全ての項目において数値の上昇が見られた。

デートDV行為認知度はおおむね上昇している。

(5-1) あなたは彼(彼女)から以下のような行為をされた(されたかもしれないと思う)ことがありますか。(いくつでも)

## 【女子の回答数】

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。	3.1% (29 人)	3.5% (25 人)
2	なぐるふりや刃物などでおどす。	1.7% (16 人)	1.5% (11 人)
3	腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。	4.4% (41 人)	3.2% (23 人)
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する。	5.1% (48 人)	2.8% (20 人)
5	携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。	9.2% (86 人)	6.3% (45 人)
6	人の前でばかにしたり、傷つく言葉を言う。	5.4% (51 人)	3.2% (23 人)
7	大声でどなる。	4.0% (37 人)	2.9% (21 人)
8	デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。	1.9% (18 人)	1.4% (10 人)
9	「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。	5.0% (47 人)	3.8% (27 人)
10	相手が何を言っても無視し続ける。	2.5% (23 人)	2.2% (16 人)
11	ない・わからない。	84.9% (795 人)	83.4% (600 人)

コメント H27→R2 女子のデートDV被害経験(割合)は『1.たたく、ける…』を除きおおむね増加

## 【男子の回答数】

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。	2.1% (8 人)	3.3% (17 人)
2	なぐるふりや刃物などでおどす。	0.8% (3 人)	2.7% (14 人)
3	腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。	1.1% (4 人)	2.3% (12 人)
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する。	1.3% (5 人)	2.1% (11 人)
5	携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。	6.9% (26 人)	5.4% (28 人)
6	人の前でばかにしたり、傷つく言葉を言う。	2.6% (10 人)	3.8% (20 人)
7	大声でどなる。	1.6% (6 人)	1.9% (10 人)
8	デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。	1.3% (5 人)	2.7% (14 人)
9	「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。	3.4% (13 人)	4.0% (21 人)
10	相手が何を言っても無視し続ける。	3.4% (13 人)	3.1% (16 人)
11	ない・わからない。	87.3% (331 人)	83.0% (434 人)

コメント H27→R2 男子の被害経験は被害の種類により増減、全体的には微減

(5-2) その時あなたはどう感じ、どう対応しましたか。(あなたの気持ちや対応に近いものを3つまで)

## 【女子の回答数】

回 答		R2 年度 (141 人)	27 年度 (103 人)
1	こわくて何もできなかった。	24.1%	23.3%
2	自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった。	34.0%	26.2%
3	イヤと言うなど、相手に自分の気持ちを話した。	37.6%	36.9%
4	その場から逃げた。	5.7%	1.0%
5	嫌われたくないから(別れたくないから)、我慢して相手に合わせた。	35.5%	22.3%
6	近くにいる人に助けを求めた。	3.5%	0.0%
7	別れを考えたが、別れなかった。	23.4%	16.5%
8	別れたい(別れよう)とは思わなかった。	7.8%	4.9%
9	別れた。	36.2%	32.0%
10	信頼できる人(友人や学校カウンセラーなど)に相談した。	25.5%	22.3%
11	相談窓口相談した。	1.4%	0.0%
12	誰にも相談しなかった。	14.2%	5.8%
13	その他	0.7%	5.8%

コメント H27→R2 女子はデートDVの被害に対応した人が全ての項目で増加。

## 【男子の回答数】

回 答		R2 年度 (48 人)	27 年度 (69 人)
1	こわくて何もできなかった。	12.5%	20.3%
2	自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった。	37.5%	21.7%
3	イヤと言うなど、相手に自分の気持ちを話した。	18.8%	20.3%
4	その場から逃げた。	0.0%	7.2%
5	嫌われたくないから(別れたくないから)、我慢して相手に合わせた。	27.1%	18.8%
6	近くにいる人に助けを求めた。	6.3%	1.4%
7	別れを考えたが、別れなかった。	8.3%	8.7%
8	別れたい(別れよう)とは思わなかった。	10.4%	8.7%
9	別れた。	29.2%	18.8%
10	信頼できる人(友人や学校カウンセラーなど)に相談した。	14.6%	10.1%
11	相談窓口相談した。	0.0%	0.0%
12	誰にも相談しなかった。	8.3%	4.3%
13	その他	2.1%	8.7%

コメント H27→R2 男子のデートDV被害への対応、選択枝2の「自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった」、選択枝5の「嫌われたくないから(別れたくないから)、我慢して相手に合わせた。」が急増、同11の「相談窓口相談した」は前回同様ゼロ。

(6-1) あなたは、彼(彼女)へ以下のような行為をした(したかもしれないと思う)ことがありますか。  
(いくつでも)

## 【女子の回答数】

回 答		令和2年度	平成27年度
1	たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。	1.1% (10人)	2.8% (20人)
2	なぐるふりや刃物などでおどす。	0.3% (3人)	0.7% (5人)
3	腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。	1.0% (9人)	1.3% (9人)
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する。	0.3% (3人)	0.1% (1人)
5	携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。	3.0% (28人)	2.2% (16人)
6	人の前でばかにしたり、傷つく言葉を言う。	1.0% (9人)	2.1% (15人)
7	大声でどなる。	1.2% (11人)	2.1% (15人)
8	デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。	0.5% (5人)	0.4% (3人)
9	「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。	1.1% (10人)	0.6% (4人)
10	相手が何を言っても無視し続ける。	2.2% (21人)	2.4% (17人)
11	ない・わからない。	92.9% (870人)	89.3% (642人)

コメント H27→R2 女子の加害経験は微減

## 【男子の回答数】

回 答		令和2年度	平成27年度
1	たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。	1.6% (6人)	1.5% (8人)
2	なぐるふりや刃物などでおどす。	0.8% (3人)	0.8% (4人)
3	腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。	1.3% (5人)	1.9% (10人)
4	嫌がっているのに性的な行為を強要する。	1.1% (4人)	0.4% (2人)
5	携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。	1.8% (7人)	1.1% (6人)
6	人の前でばかにしたり、傷つく言葉を言う。	2.4% (9人)	1.9% (10人)
7	大声でどなる。	3.2% (12人)	2.1% (11人)
8	デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。	0.8% (3人)	0.4% (2人)
9	「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。	1.8% (7人)	0.4% (2人)
10	相手が何を言っても無視し続ける。	2.4% (9人)	2.5% (13人)
11	ない・わからない。	91.8% (348人)	87.2% (456人)

コメント H27→R2 男子の加害経験はほぼ横ばい

(6-2) なぜ上記のような行為をした(したかもしれない)と思いますか。(あなたの気持ちに近いものを3つまで)

## 【女子の回答数】

回 答		令和2年度	平成27年度
1	相手が自分を怒らせたから。	31.8%	49.1%
2	相手が自分に従わなかったから。	4.5%	10.5%
3	相手の間違っている意識を変えるよう、導いてやらなければいけないと思ったから。	12.1%	7.0%
4	付き合っていれば当たり前だと思ったから。	9.1%	5.3%
5	相手に自分のことを第一に考えてもらいたかったから。	27.3%	14.0%
6	他にうまくいかないことや、嫌なことがあったから。	13.6%	10.5%
7	その他	16.7%	17.5%
8	特に理由はない。	4.5%	8.8%

コメント H27→R2 女子の加害経験に係る意識は、選択枝1「相手が自分を怒らせたから」が大きく減少、選択枝5「相手に自分のことを第一に考えてもらいたかったから」が増加

## 【男子の回答数】

回 答		令和2年度	平成27年度
1	相手が自分を怒らせたから。	19.4%	40.5%
2	相手が自分に従わなかったから。	6.5%	4.8%
3	相手の間違っている意識を変えるよう、導いてやらなければいけないと思ったから。	16.1%	9.5%
4	付き合っていれば当たり前だと思ったから。	12.9%	14.3%
5	相手に自分のことを第一に考えてもらいたかったから。	19.4%	16.7%
6	他にうまくいかないことや、嫌なことがあったから。	22.6%	23.8%
7	その他	12.9%	16.7%
8	特に理由はない。	12.9%	4.8%

コメント H27→R2 男子の加害経験に係る意識は、女子と同じく選択枝1「相手が自分を怒らせたから」が大きく減少、選択枝3「相手の間違っている意識を変えるよう、導いてやらなければいけないと思ったから。」が増加

(7) あなたのご両親やご家族の関係に近いものはどれですか。(1つのみ)

回 答		令和2年度	平成27年度
1	父母の関係はおだやかで、大きな不安や問題はなかった。	46.2%	45.1%
2	父母の間に争いや喧嘩は時々あったが、話し合っ解決されていた。	25.8%	31.3%
3	父母の間に一方的な暴力や暴言があり、それを見たことがある。	8.1%	6.3%
4	父母など(家族)から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある。	7.5%	2.7%
5	その他	3.3%	2.1%
6	わからない。	9.1%	9.9%

コメント H27→R2 家庭でのDV経験は、大きな変化はないが、選択枝3「父母の間に一方的な暴力や暴言があり、それを見たことがある」(心理的虐待)と、同4「父母など(家族)から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」はともに増加。被虐待経験者の割合が増えている。

- (8) あなたが知人から「デートDVを受けている」と相談された時は、どうしたいと思いますか。  
(いくつでも)

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	すぐに別れるようアドバイス（又は説得）すると思う。	65.9%	61.7%
2	知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスすると思う。	62.7%	43.9%
3	当事者間で解決するようにアドバイスすると思う。	7.1%	8.3%
4	暴力をふるった人に会って、暴力を止めるよう説得すると思う。	4.6%	6.1%
5	暴力の程度にかかわらず公的機関や警察に通報すると思う。	16.8%	9.2%
6	信頼できる人（教育カウンセラーなど）に相談するよう勧めると思う。	50.7%	41.6%
7	ただ話を聴いてあげる。	23.8%	24.2%
8	特に何もしないと思う。	1.4%	3.5%
9	その他	1.3%	1.4%

コメント H27→R2 デートDVの被害者からの相談への対応については、選択肢2「…相談機関や警察に相談するようアドバイスする…」、同6「信頼できる人（教育カウンセラーなど）に相談するよう勧める…」といった割合が上昇しており、DV被害への理解が高まっていることがうかがえる。

- (9) あなたは、DVに関する次の相談窓口を知っていますか。(いくつでも)

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	千葉県女性サポートセンター	8.9%	6.8%
2	千葉県男女共同参画センター	8.5%	5.1%
3	県の各健康福祉センター	8.4%	3.4%
4	市町村の相談窓口	20.4%	9.3%
5	各警察署の相談窓口	24.3%	13.6%
6	千葉県警察本部「相談サポートコーナー」	7.2%	4.5%
7	女性の人権ホットライン	20.5%	9.2%
8	民間の相談窓口	11.6%	5.2%
9	その他	0.7%	1.0%
10	知らない	53.2%	67.9%

コメント H27→R2 DVの相談窓口の認知度は、全体的に上昇している。しかし、相談窓口を「知らない」と回答した割合が50%以上あることから、今後とも広報を積極的に進める必要がある。

- (10) あなたは「デートDV」をなくすため、どのような取組が必要だと思いますか。  
(3つまで)

回 答		令和 2 年度	平成 27 年度
1	中学校・高校・大学で、生徒や学生を対象にした人権教育や性教育、DV予防教育を行う。	83.0%	72.9%
2	保護者や教師を対象に、DVに関する研修会やイベントを行う。	29.0%	21.7%
3	ピアカウンセリング（同じような悩みや体験を共有する仲間同士によるカウンセリング）を実施する。	37.9%	34.9%
4	パンフレットやメディアを活用し、DV防止に関する広報・啓発活動を行う。	37.0%	29.6%
5	DVについて相談できる窓口を広く周知する。	63.4%	46.2%
6	その他	2.7%	2.7%

コメント H27→R2 デートDV防止の取組みについては、全ての項目で増加しており、DVへの関心が高まっていることがうかがえる。中学・高校・大学といった教育の場でのDV予防教育等を求める回答が前回よりも更に増加している（約8割）。また、相談窓口の周知を求める回答も大幅に増加した。

#### 《まとめ》

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどの大学で対面での講義がなくなり、従来行ってきた講義等にてアンケートを記入してもらう方法での調査が出来なくなったため、インターネットアンケート調査に変更しました。周知方法としては大学ホームページでの案内、アドレスやQRコードの掲出を各大学に行っていただきました。

調査結果としましては、DVについての認知度について令和2年度は「法律も内容も知っている」、「内容をほぼ知っている」を合わせると85.1%、平成27年度は87.2%で減少しましたが、「言葉だけ聞いたことがある」令和2年度14.1%、平成27年度11.2%を含めると令和2年度は99.2%、平成27年度は98.4%と増加しました。

(3)では恋愛について参考にしたり、影響を受けたしりしたものがあるかとの問いに、『インターネット・携帯・スマートフォンサイト』と回答したのは令和2年度59.0%、平成27年度39.2%と約20%も増加しており、手軽にインターネットサイトへアクセスできるスマートフォンが若年層への浸透していることを物語っているものと思われます。また、他の項目でも減少したのは『その他』のみでありました。

特に人と関わる事で得られる情報である『友達・先輩など』(8.0%増加)、『交際相手からの情報』(11.3%増加)、『家族』(11.4%増加)、『学校や大学の授業など』(3.7%増加)が増加していることから、大学生はスマートフォン等からの情報だけを参考にせず、恋愛について様々な媒体から情報を得て、参考にしていることがわかりました。

デートDVにあたると思う行為については、全ての項目で増加が見られ、DVの内容の理解が以前よりも深まっていることがわかりました。

しかし、実際にデートDV被害経験があり、相談窓口にて相談した割合は女性で1.4%、男性で0.0%となりました。

DVという言葉が広く知られていることはわかったため、今後はDVの内容についての広報啓発が必要になると考えられます。また、それに伴って相談窓口の周知についても必要になるため、スマートフォンを中心としたインターネット広報啓発や内容の充実を図っていきます。